

# IX 教育理念と三つのポリシー

## 1. 教育理念

本学教育は「自立協同」の建学精神のもと、高度の知識技術を研究教授し、人格の陶冶を図り、文化の創造と発展に貢献する人材の育成を理念として行われています。

## 2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の教育課程において、厳格な成績評価のもと、所定の単位を修得し、次のような能力を身につけた学生に学位を授与します。

- ①「自立協同」の精神を基本に、幅広い教養と専門的知識を身につけ、健全な価値観と倫理観をもった良き市民として、幸せな人生を追求することができること。
- ②修得した知識と技能を活用しながら他者と議論し、問題の解決に取り組み、それを評価して次の思考と行動に活かしていくことができること。
- ③新しい知識や経験に関心をもつとともに、立案した企画について、目的達成を目指し、家庭・地域・社会における協働を通じ、実践していくことができること。

生活科学科		保育科	言語コミュニケーション学科	音楽科	商科
生活科学専攻	食物専攻				
<p><b>【知識・理解】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活に関する基礎知識を学び幅広い視野を身につけている。</li> <li>2. 生活に必要な「ものづくり」知識と、企業や社会で求められる「ものづくり」知識を身につけている。</li> </ol> <p><b>【技能・表現】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 身につけた「ものづくり」の知識・技能を活用し、表現することができる。</li> </ol> <p><b>【思考・判断】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 独創性のある発想を生み出す努力ができる。</li> </ol> <p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 目標を実現するための計画を立て主体的に行動することができる。</li> <li>6. 他者と協力し合って目標に向かって取り組むことができる。</li> </ol>	<p><b>【知識・理解】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養と健康と食に関わる基礎および専門分野の知識を獲得している。</li> </ol> <p><b>【技能・表現】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. ひとびとの健康管理に携わる技術を修得し、栄養士・食のスペシャリストとしての実践力や表現力を身につけている。</li> </ol> <p><b>【思考・判断】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 修得した知識や技能をもとに思考・判断を行い、課題発見・解決をすることができる。</li> <li>4. チームの一員として個々の役割を理解し、協調性を持ちつつ主体的な行動がとれる。</li> </ol> <p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 食や健康について自主的に探究し、向上心を持ち積極的に学び続ける姿勢を示すことができる。</li> </ol>	<p><b>【知識・理解】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人として必要な教養を身につけている。</li> <li>2. 保育者として求められる専門知識・技能を体系的に修得している。</li> </ol> <p><b>【技能・表現】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 保育に関する専門知識・技能をふまえた保育実践力を身につけている。</li> <li>4. 保育者としてふさわしい豊かな感性と表現力を身につけている。</li> </ol> <p><b>【思考・判断】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 子どもや子どもを取り巻く状況の理解に基づいて保育を構想し、実践できる。</li> </ol> <p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 社会の一員としての自覚を持ち、他者と協働して主体的に問題解決に取り組むことができる。</li> </ol>	<p><b>【知識・理解】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語に対する分析的な視点が形成されている。</li> <li>2. 文学・音楽・絵画・動画など、さまざまなジャンルの芸術を通じ、自分が暮らす国や地域の文化ならびに異文化に関する理解を深めている。</li> </ol> <p><b>【技能・表現】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 書かれている文章を論理的に読み解く技術を習得している。</li> <li>4. 対話型コミュニケーション能力、すなわち、情報を正確に理解する能力に加え、自己の主張によって相手を説得できる表現能力が備わっている。</li> </ol> <p><b>【思考・判断】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 意見・評価・批判の交換といったブレゼンテーションの練習によりチームで働く力を身につけている。</li> </ol> <p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 異文化に対する理解・知識をもとに、自分が暮らす国や地域のものとは異なる文化を許容し、将来的な職業生活・生涯学習に活かす素地を確立している。</li> </ol>	<p>短期大学部音楽科の教育課程において、所定の単位を修得し、「自立協同」の精神を基本に、次のような能力を身につけた学生に学位を授与します。</p> <p>●音楽療法コース</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幅広い教養を身につけ、芸術と科学の融合である音楽療法について理解し、人々の健康と幸せのために働くことができる。【知識・理解】【関心・意欲・態度】</li> <li>2. 世界基準(Global)の音楽療法を学び、地域(Local)の高齢者のヘルスケアニーズに応えられる、「グローバル人材」としての能力を有する。【知識・理解】【技能・表現】</li> <li>3. 高齢者を対象とした音楽療法について理解するとともに、他の専門職と協働する能力を有する。【技能・表現】【関心・意欲・態度】</li> <li>4. 自らの関心や提議された問題について探索し、知識を得ること、またセラピーの実践を積み重ねることにより、学問において、また人間的に、生涯にわたって成長し続ける基盤を形成する。【思考・判断】【関心・意欲・態度】</li> </ol> <p>●演奏コース・ニューサウンドコース・総合音楽コース</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音楽の歴史、理論、様式、体系を理解し、身につけている。【知識・理解】</li> <li>2. 上記①に則した演奏能力、創作能力を身につけ、自らの演奏や作品を確立することができる。【思考・判断】【技</li> </ol>	<p><b>【知識・理解】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人としての一般常識やビジネス活動の基本となる専門知識を習得している。</li> </ol> <p><b>【技能・表現】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. ビジネスの現場で求められる実践的能力を修得し、自分の意見を表現できる。</li> </ol> <p><b>【思考・判断】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 自律的な思考力や状況判断能力を身につけている。</li> </ol> <p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 広い視野で社会の動きに関心を持ち、現状と課題について自主的に探究できる。</li> <li>5. 主体性を持って自分の役割を果たすとともに、キャリア意識を持ち続けることができる。</li> </ol>

				<p>能・表現】</p> <p>3. 上記②を基盤とし、合奏や合唱などのアンサンブルを通して、協調性、社会性を身につけている。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】</p> <p>4. 専門分野のみならず幅広い教養を身に付け、音楽関係、教育関係、一般企業など様々な分野で活躍する能力を身につけている。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】</p>
--	--	--	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 3. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーの提示する学位取得の要件を満たすことを目指す学生に対して、本学は次のような科目から成る教育課程を提供します。

- ①社会に適応しつつもそれを改革できる人物に必要とされる、専門性にとどまらない教養を涵養するために、本学が、多様な専門教育機関を有する総合大学であるがゆえに提供できる「共通教育科目」を配置する。
- ②文化・文明の進歩に貢献する、高度に専門的な知識・技能を開拓・活用できる人物となるために、本学の各学部学科が提供する「専門教育科目」を配置する。

#### 【学習成果の評価（アセスメントポリシー）】

- ①各授業科目において、到達目標及び成績の評価基準・方法を明確に周知する。
- ②成績の評価は到達目標への到達度を目安とし、成績評価基準に基づき、厳格な評価を行う。
- ③ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学習過程を重視し、学習成果の全体を評価する。

生活科学科		保育科	言語コミュニケーション学科	音楽科	商科
生活科学専攻	食物専攻				
<p>生活科学専攻は、「ものづくり（ブランド・ファッション）、パティシエ、デザイン・アート」業界で働くための教養と基礎知識、そして業界別の専門能力を養成するという教育目的、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を編成している。</p> <p>1. 1年次</p> <p>1) 社会に必要な知識と教養を身につけるために一般総合科目と、キャリア能力を養成する講義科目を配置する。</p> <p>2) 専門能力を養成するうえで基礎知識となる、ライフスタイルを学ぶ講義科目を配置する。</p> <p>3) 専門能力養成の重要な基礎技能である、デザインスキルとカラースキルを養成する講義や演習科目を配置する。</p> <p>4) ブランド・ファッション、パティシエ、デザイン・アートの各専門業界における基礎知識や基礎技能を習得する講義や演習科目を配置する。</p>	<p>食物専攻は、栄養士・食のスペシャリストを養成するというディプロマ・ポリシー実現のため、次の方針で編成している。</p> <p>1. 教育内容・方法</p> <p>1) 社会人に必要とされる幅広い教養を身につけるため一般総合科目を配置し、「文理学」で調理の基礎や食文化を学ぶ内容を設定している。</p> <p>2) 1年次は、食品・栄養・調理に関する専門的な知識を理解するため、前期に講義を中心とした基礎的内容を学習し、後期に実験・実習で検証するよう設定している。</p> <p>3) 学生が幅広く関心のある科目を履修できるよう、栄養士の基礎科目及び専門科目に加えて、食品関係資格に通ずる科目、教職に関する科目を設置し、アクティブラーニングを積極的に取り入れている。</p> <p>4) 2年次は、基礎から応用につながる</p>	<p>保育科のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに明記している保育者として必要な能力を習得するために次の方針で編成している。</p> <p>1. 2年間で、全学生が保育士資格及び幼稚園教諭2種免許状を取得することができる。</p> <p>2. 社会人として求められる幅広い教養を身につけ、心身ともに健康な人間を育成するために、一般総合科目を配置している。</p> <p>3. 保育者の養成科目について、順序性を考慮し編成している。</p> <p>4. 子どもの心身の発達について広く理解し、支援について学ぶために、子どもの心身の発達に関わる科目を配置している。</p> <p>5. 保育者の役割と倫理について理解し、保育・教育の意義や内容・方法についての理解を深めるため、専門知識・技術の修得に関わる科目を配置し</p>	<p>言語コミュニケーション学科のカリキュラムは、次に挙げるディプロマ・ポリシーによる要件に連動させながら編成している。</p> <p>1. 言語に対する分析的な視点を形成するため、また、自分が暮らす国や地域の文化ならびに異文化に関する理解を深めるため、専門教育科目のうち「言語とコミュニケーション」と「日本語表現法」の履修を奨励し、「英米文化論」、「英米文学」、「異文化間コミュニケーション」、「日本文化論」、「日本文学」などを専門教育科目の核として設置している。また、英語の基礎・実践的英語力の養成分野においては、「英会話」や「実践英語」などの専門教育科目群を設置している。</p> <p>2. 読み解く技術を習得するため、また、相手を説得できる表現能力を養成するため、「プレゼンテーション演習」などの専門教育科目を軸に、学んだ事柄</p>	<p>短期大学部音楽科は、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を実施する。</p> <p>●音楽療法コース</p> <p>1. 全学年を通して、全国音楽療法士養成協議会の定める「音楽療法士（2種）養成教育課程」にしたがい、音楽、音楽療法、音楽療法関連の各分野を学ぶための科目を順次配置する。</p> <p>2. 1年次は、幅広い教養を身につけるための「一般総合科目」と、音楽療法士に必要な演奏能力を養うために、基礎的な内容の「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」を配置する。そして音楽療法を概観する「音楽療法概論」、「音楽療法演習」を配置する。</p> <p>3. とくに1年次後期には、2年次より開始される実習に備え、「音楽療法概論II」として、アメリカ音楽療法協会発行の臨床実施基準（AMTA Standards of Clinical Practice）にもとづき、</p>	<p>商科のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに明記している能力を習得するために次の方針で編成している。</p> <p>1. ディプロマ・ポリシーを実現するために5つの科目群を配することで、履修科目が特定領域に偏ることなく、社会人に求められる幅広い知識を身につけることが可能となる。科目群は「教養」、「キャリア能力」、「コミュニケーション能力」、「実務能力」、「専門能力」の5つである。</p> <p>2. 各科目群における科目の配置は以下の通りである。「教養」には社会人として弁えるべき話法、礼儀やマナー、情報の取扱の基本、生活を規律する基本的な法律を1年次の科目として配置している。「キャリア能力」科目群は、入学後1年足らずで就職活動が始まることに鑑み、社会人としてのキャリア形成や人生設計を自らの力で方向付けをするた</p>